

英語コーパス学会 Newsletter No. 56

Mar. 10, 2007

■会長: 中村 純作
■事務局: 〒615-8558 京都市右京区西院笠目町 6 京都外国語大学 赤野一郎研究室
■TEL: 075-322-6103 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: i_akano@kufs.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

第 29 回大会のご案内

英語コーパス学会第 29 回大会は、4 月 28 日(土)に、同志社大学京田辺キャンパス〔〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3 (<http://www.doshisha.ac.jp/>)〕で開催されます。会場校の西納春雄先生のご尽力に感謝申し上げます。

今大会では恒例の午前中のワークショップのほか、研究発表 4 件とシンポジウムを準備いたしました。研究発表につきましては、運営委員会の査読を経て、1 月 28(日)に開かれた大会準備委員会での最終審査の結果、中條清美(日本大学)、内山将夫(情報通信研究機構)、星野守(小学館コミュニケーション)、西垣知佳子(千葉大学)4 氏の「Corpus of Professional English からの科学技術分野特徴語の抽出と教育用語彙表の作成」、杉浦正敏(名古屋大学)、坂上辰也(名古屋大学大学院生)、成田真澄(東京国際大学)3 氏の「英語学習者コーパスにおける作文テーマの影響: 英語母語話者コーパスとの比較分析」の英語教育関係 2 件と、久井田直之氏(日本大学大学院生)の「had better の用法: コーパスを用いての should と ought to との比較を通して」、大谷直輝氏(京都大学大学院生)の「コーパスを用いたより詳細な動詞不変化詞構文の記述の試み: 清掃行為に関わる句動詞を例に」の英語学関係 2 件が選ばれました。第 12 回大会以来、久々に 2 度目の試みとして、2 室の平行セッション形式で行います。

シンポジウムでは、「英語学習者コーパス」をテーマに採りあげました。「英語学習者コーパスの新展開: 会話(NICT JLE) vs 作文(JEFL)コーパスの比較と分析」と題して、投野由紀夫先生(明海大学)のコーディネーターのもとに、上村崇(明海大学大学院生)、小林雄一郎(法政大学大学院生)、鈴木理恵(明海大学大学院生)、早川宏美(日々輝学園高等学校)、三浦愛香(東

京外国語大学大学院研究生)、山田洋文(青山学院大学大学院生)の 6 氏により、多方面から英語学習者の会話コーパスと作文コーパスの紹介と比較・分析が行われます。ご期待ください。

恒例となっております午前中のワークショップでは、シンポジウムと連動させ、投野先生と星野守氏(小学館コミュニケーション編集局)による「日本人英語学習者作文コーパス JEFL: 概要と検索ツールの紹介」と題したワークショップを開催いたします。参加ご希望の方は、あらかじめ事務局宛にメールでお申し込みください。先着 60 名で締め切らせていただきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です(非会員の場合は当日会費 1,000 円)。

以上のような有益で充実したプログラムを用意し、会長、大会準備委員、事務局ともどもお待ちしております。なお、4 月の京都は観光シーズンですので、混雑が予想されます。早めにホテル等の確保をされることをお勧めいたします。

『英語コーパス研究』第 14 号について

『英語コーパス研究』第 14 号(2007)の進捗状況をお知らせします。ご投稿いただいた研究論文、研究ノート、シンポジウム発表原稿を査読させていただき、次号の構成は以下の通りになりました。

- ・研究論文 3 編 (投稿数 8)
- ・研究ノート 1 編 (投稿数 1)
- ・シンポジウム発表 3 編 (投稿数 3)

審査委員の先生方には、厳しい時間的制限の中にもかかわらず丁寧に査読作業をお進めいただき、貴重なご助言を賜りました。この場を借りてお礼を申し上げます。現在、校正・印刷段階に入っています。本年度より、会誌は会場

渡しを廃止し、6月頃の一括発送となりました。
4月大会会場で会誌受け取りを期待されていた
会員には申し訳ありませんが、受け取りまでも
うしばらくお待ち下さい。

編集委員会委員長
塚本 聡(日本大学)

学会賞応募規定

第6回の学会賞を募集致します。応募規定
は次の通りです。

【対象】 英語コーパス学会の目的に照ら
し、英語のコーパス言語学に関
する優れた研究業績をあげた学
会員(個人またはグループ)とす
る。ただし、奨励賞は英語のコ
ーパス言語学に関する優れた研
究業績(論文の場合、学会誌『英
語コーパス研究』に掲載された
ものに限る)をあげた35歳以下
または大学院修了後の研究歴5
年以下の学会員個人に限る。

【応募方法】 自薦、他薦を問わない。

【提出書類】 1) 推薦理由書(ホームページより
入手可)。
2) 論文の場合は抜刷りまたはコ
ピー。単行本の場合は事務局で用
意するので同封は不要。

【提出先】 事務局

【応募期限】 2007年3月31日

【発表】 2007年度秋季大会

John Sinclair 先生の講演会DVDの配布につ いて

昨年8月19日、20日に京都と東京でJAECS
も主催団体として開催しました John Sinclair
先生の講演会には、会員の先生方に多数ご参加
いただき成功裏に終えることができました。こ
の紙上を借りて厚くお礼を申し上げます。
Sinclair 先生も、夏季休暇中にもかかわらず多数
の聴衆が参加していたことと、会場の雰囲気から
察することができる日本のコーパス言語学
に対する関心の深さに感激しておりました。立
命館大学で開催しました関西地区での講演会
はビデオに収録、DVD で配布することを北海
道大学での第28回大会でお約束いたしました。

たいへん遅くなりましたが、このたび、中村が
テープ起こしをしたものを Sinclair 先生にチェ
ックしていただいた transcript とともにご希望
の先生方に配布する準備が整いました。Sinclair
先生の最新のアイデアを講演会の雰囲気を通
して理解するだけでなく、英語圏に大学院レベ
ルで留学希望の学生にとって英語力の目安に
なるようにと、ほぼ逐語的な口述記録を作成
いたしました。講演会に参加いただいた会員は
勿論、都合で参加いただけなかった会員の方
にもぜひご覧いただければと思っております。ご
希望の方は以下にその旨お申し込みください。

立命館大学国際言語文化研究所

Tel: 075-465-8164 (直通)

E-mail: genbun@st.ritsumei.ac.jp

担当は宇治橋奈名子さんです。

なお、上記 Transcript から“erm,” “er” などの
Filler や繰り返しを除いた報告書は以下として
刊行予定です。

Sinclair, John, “Exploring a Corpus,” *Ritsumei-
kan Studies in Language and Culture*, Vol. 18,
No. 3 (In print).

こちらもご希望の方は上記、担当者にご連絡下
さい。

中村 純作(立命館大学)

新入会員紹介

JAECS Newsletter No. 55(2006年12月1日発
行)以降の新入会員の方は次の通りです(2月20
日現在、Sは学生、敬称略)。

鎌倉 義士 バーミンガム大学 English
Department S
佐藤 剛 大鰐町立大鰐中学校
瀧 由紀子 松山大学経営学部
西垣 知佳子 千葉大学

事務局から

◇会費納入のお願い

4月28日大会当日の受付は混雑が予想され
ますので、2007年度会費(一般5,000円、学生
3,000円)は同封の払込取扱票を使い 4月10日
(火)までにお納めいただきますよう、ご協力
をお願いいたします。なお郵便局発行の受領証を
もって領収書に代えさせていただきますので、
ご了承ください。領収書が必要な方は、80円切
手を同封の上、石川保茂(〒615-8558 京都市右

京区西院笠目町 6 京都外国語大学) までお申し出ください。払込取扱票の通信欄によるお申し出はご遠慮ください。

2006 年度会費未納の方は、2007 年度分と併せてお納めください(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。会誌『英語コーパス研究』第 14 号は 2006 年度の会費を納入していただいた方にのみ送付となります。また、2 年続けて会費未納の場合、*JA ECS Newsletter* などの送付を中止させていただきます。

住所、所属などに変更や異動のある方は、必ず払込取扱票の通信欄にお書き添えください。

◇その他

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソードなどでも結構ですでお寄せください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

FORUM

新刊紹介

中村純作(立命館大学)
jnakamur@li.ritsusmei.ac.jp

最近お送り頂いた新刊、と言っても単行本ではなく、今回は *SJEE* というタイトルの学術雑誌の創刊号を紹介させていただきます。*SJEE* は *Setsunan Journal of English Education* の Acronym ですが、A5 版の送られてきた雑誌を手にしてざっと目とした第一印象は、我々 *JA ECS* の会誌 *ECS* とそっくりの Format に加えて、細部まで目の行き届いた統一の取れた素晴らしい出来映えでした。前会長今井光規先生が大阪大学を退官後、摂南大学にお移りになり現在は外国語学部学部長としてご活躍であることは我々会員にとって周知の事実ですが、編集者の一人としてお名前が挙がっていたことで納得した次第です。今井先生が初代会長齊藤俊雄

先生のもとで事務局をお勤めになっていた頃に現在の *ECS* の原型が出来上がっていたこと、会誌編集委員会もまだない初期の時代に事務局をお引き受けいただいていた今井先生の献身的な努力が今の *JA ECS* の興隆につながっていることを改めて思い起こしました。

英語教室主任の植松茂男先生の“Foreword”によりますと、1982 年に発足した国際言語文化学部は新しい社会的な要請に応じて 2005 年に外国語学部へ改組、英語教室もカリキュラムを全面的に改訂、摂南の学生だけでなく広く社会にも目を向けた英語教育を目指すとともに、そのことを念頭にこの学術雑誌が刊行されたことが述べられています。英語教室の先生方が各々の専門領域を生かし、協力して刊行されたものですので、取り上げられたトピックも言語哲学、英語学、英詩、ブルースの起源やカントリーミュージックの語彙調査などの大衆文化、クレオール英語、英語教育の実践報告など多岐にわたりますが、コーパスを利用した研究報告も含まれています。

巻頭に掲載されている、会員の家口美智子先生(摂南大学)と家入葉子先生(京都大学)の共著論文 “Use vs. Non-Use of the Complementizer *That* in Public Speech: An Analysis of the Corpus of Spoken Professional American English” がそれです。両先生が *CSPA E* に関連した研究を継続して行っていることは *YAGUCHI, Michiko, Yoko IYEIRI, and Hiroko OKABE (2004) “Style and Gender Differences in Formal Contexts: An Analysis of sort of and kind of Appearing in the Corpus of Spoken Professional American-English,” ECS, No. 11, pp. 63-79* 等で我々も知っていますが、今回は complementizer の *that* を取り上げたものです。紙数の関係で結論まで含めた詳しいご紹介はできませんが、特筆すべきはコーパスには現れない zero-form を、Negation, Tense, Intensifier があるかどうか、adverbial phrase が介在しているかどうかの文脈で観察、考察を加えたことです。非売品の学術雑誌ですので、興味のある方は両先生から抜き刷りをご請求下さい。

意欲的な学術雑誌を創刊された摂南大学外国語学部英語教室の先生方に敬意を表しますとともに、続刊を楽しみにしております。(A5 版 144 頁/ISSN 1881-6185)